

粟国島におけるハブ定着の可能性

寺田考紀・濱川功¹⁾・仲間幸俊・古謝あゆ子

Probability that Habu (*Protobothlops flavoviridis*) established on Aguni-island

Koki TERADA, Isao HAMAKAWA, Yukitoshi NAKAMA and Ayuko KOJA

要旨：本来はハブが生息していない粟国島にて、2017年9月にハブ1個体が捕獲された。その後、2017年9月7日から2019年12月まで、粟国島全域にかけて、ハブ捕獲器60台を任意の緑地帯に設置し、生息確認調査を実施した。2017年にハブ捕獲器で1個体と直接(捕獲と捕殺を含む)2個体、2018年に直接2個体、2019年にハブ捕獲器で3個体と直接6個体のハブが捕獲された。14個体は全て島の北部で捕獲されており、内11個体は頭胴長100cm未満の標準よりも小さな個体であった。断続的に発見例があること。最近2年以内に島外から人為的移入される可能性が極めて低い状況の中、2019年9月に当年生まれと思われる幼蛇が捕獲されており、粟国島内で産卵孵化が行われた可能性が高いと考えられること。以上の2つの理由より、現段階で粟国島にハブが定着している可能性は高いと考えられる。

Key words: ハブ, 粟国島, 国内外来種, 人為分布, 沖縄県

I はじめに

ハブ *Protobothlops flavoviridis* は、沖縄諸島と奄美諸島の主な島(沖縄島, 伊平屋島, 屋我地島, 古宇利島, 伊江島, 水納島, 瀬底島, 渡名喜島, 久米島, 渡嘉敷島, 伊計島, 宮城島, 平安座島, 浜比嘉島, 奄美大島, 加計呂麻島, 徳之島など)に生息している^{1,2)}。本来はハブが生息していない粟国島^{1,2,3)}において、2017年9月にハブ1個体が捕獲された。その後、約2年半にわたりハブ捕獲器を用いた生息確認調査による現状の把握を行い、その結果を元に定着の可能性の有無を考察した。

II 方法

2017年9月7日から同年12月18日まで、ハブ捕獲地点を中心に半径500m以内の緑地帯に、ハブ捕獲器(生きたマウスをベイトにしたトラップ)30台を任意の場所に設置し、生息確認調査を行った。2018年4月24日から2019年1月及び2019年5月7日から2019年12月に、粟国島全域にかけて、ハブ捕獲器60台を任意の緑地帯に設置し、生息確認調査を実施した。調査は、当研究所と粟国村役場民生課の共同で実施。期間中1~3週間おきに見回り点検を行い、ヘビ類捕獲有無の確認と回収及びマウスの管理を行った。また、捕獲器以外で捕獲あるいは捕殺されたハブの情報収集もおこなった。

III 結果及び考察

1. 発見の経緯

1) 粟国村役場

2017年9月2日14時頃、粟国村宇東の産業廃棄物処理施設コンクリート再生処理場内で、作業員がパワーショベルにて石灰岩を移動させている時にハブを発見し(図1)、パワーショベルのバケットでハブを押さえて捕獲後、作業員が役場に通報し、役場職員が現場から持ち帰って役場にて保管した。その時点では生きていたが、4日朝(翌週月曜日)には死んでいた。その後、衛生環境研究所に送られて計測した時点ではかなり腐敗が進んでいたため、生殖腺などの観察は不可能であった(図2)。

2. 生息確認調査

調査期間中に捕獲されたハブの計測値等を表1に示す。2017年にハブ捕獲器で1個体と直接(捕獲と捕殺を含む)2個体、2018年に直接2個体、2019年にハブ捕獲器で3個体と直接6個体のハブが捕獲された。14個体は全て島の北部で捕獲されており(図3)、内11個体は頭胴長100cm未満であり沖縄島で捕獲されるハブの標準サイズ⁴⁾よりも小さな個体であった。また、半数にあたる7個体は黄色色素欠乏個体(通称「銀ハブ」)であるのも特徴的である。

2017年9月の最初の発見から2019年12月まで断続的に発見例があり、計14個体のハブが確認されていること。ハブが紛れることが予想される島外からの輸送物資の一時搬入停止と継続的に目視検査を開始するなど、発見後2年以内に島外から人為的移入される可能性が極めて低い状況の中、2019年9月に当年生まれと思われる幼蛇が捕獲されており(表1の9番)、粟国島内で産卵孵化が行われた可能性が高いと考えられること。以上の2つの理

由より、2019年12月の時点で栗国島にハブが定着している可能性は高いと考えられた。

2020年からは、栗国村がハブ捕獲器を用いたハブ駆除作業を実施しており、最初に発見された2017年9月から2023年3月までにハブ捕獲器と直接捕獲を合わせて計238個体のハブが捕獲されている。ハブの栗国島への定

着は確実であり、ハブ捕獲器等による取り除きは困難な状態にある。ハブの人為的分布についてこれまでに知られているのは1900年以前に屋根葺き材料とともに移入された水納島の例¹⁾があるが、栗国島は2例目となる。



図1. 2017年9月にハブが発見された場所.



図2. 2017年9月に栗国島で捕獲されたハブ.



図3. 栗国島におけるハブ捕獲地点. 数字は捕獲された順番に割り当てた.

表1. 2017年9月から2019年12月に粟国島で捕獲されたハブ. 体色の銀は銀ハブ (黄色色素欠乏個体).

番号	日時	方法	頭胴長 (cm)	尾長 (cm)	体重 (g)	性	体色	備考
1	17. 9. 2	捕殺	88.5	18.5	176.2	♀		
2	17.10.13	直接	44.5	9	29.1	♀		
3	17.11.24	トラップ	76.5	14	103	♀		
4	18. 6.18	捕殺	60.5	11.5	53.3	♂	銀	
5	18.11.17	捕殺	51.5	10	43.5	♂	銀	
6	19. 4.22	直接	98.5	18	258	♂	銀	
7	19. 5. 14	トラップ	45.5	9	20.9	♀	銀	
8	19. 8. 20	トラップ	74	14	29.1	♀		
9	19. 9. 30	捕殺	39.7	8	21.4	♀	銀	
10	19.10. 8	捕殺	—	—	—	♂		草刈り機で切断のため計測不能
11	19.10. 21	捕殺	76	15.5	128	♂		
12	19.11. 17	捕殺	—	—	700	♂	銀	粟国村役場が計測
13	19.11. 18	トラップ	116	21	415	♂		
14	19.12. 17	直接	160	32	1634.7	♂	銀	2日後にクマネズミを吐き戻し

V 参考文献

<謝辞>

本調査を実施するにあたり、ハブ捕獲器の設置や点検作業を実施していただいた粟国村民生課職員の方々、情報提供や調査にご協力いただいた粟国村住民の方々に感謝いたします。

- 1) 高良鉄夫 (1962) 琉球列島における陸棲蛇類の研究. 琉球大学農家政工学部学術報告 (9): 1-156 +pls.1-22.
- 2) 前之園忠史・戸田守 (2007) 琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. Akamata (18): 28-46.
- 3) 当山昌直 (1980) 粟国島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館 (編) 県立博物館総合調査報告書 I -粟国島 (あぐにじま)-. 沖縄県立博物館, 那覇. p.51-56.
- 4) 香村昂男・西村昌彦 (1990) 沖縄島南部におけるハブの直接採集. 沖縄生物学会誌 (28): 43-54.